

第10期 第6回 豊中市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日 時】平成29年(2017年)7月25日(火)午前10時から12時まで

【場 所】豊中市消防局 3階会議室

【出席委員】渡辺会長、仲尾委員、山田委員、中澤委員、神保委員、米田委員
澤村委員、大西委員、岡田委員、長谷川委員、新開委員、中西委員
(15名中12名出席：有効に成立)

【傍聴者】0名

【事務局】河本、井藤、勝井、吉村、渡邊、豊田、射場、鈴木、中西、森
道端、吉島、澤坂、北野、大道、溝口、中川、松本、上坂

【コンサルタント】齋藤、小泉

1. 開会宣言 (事務局)

2. 配付資料確認

第10期 第6回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事次第

資料1 第5回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り

資料2 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画の策定について

資料3 第4次豊中市ごみ減量計画骨子(案)

参考資料1 ワークショップ開催状況(H29.6実施)

3. 出欠確認および署名委員指名

本日の会議は公開ですので、よろしく申し上げます。傍聴希望者は0名です。委員15名のうち、12名が出席されているので過半数を超えており、審議会規定第6条により本日の会議は有効に成立しています。議事録署名委員については、新開委員と中澤委員に担当していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

4. 審議

○会長

本日は、答申案から第4次豊中市ごみ減量計画の骨子(案)について議論に入りたいと考えていますが、まず、事務局から次第に沿って第5回審議会の振り返りを説明して下さい。

案件1. 第5回廃棄物減量等推進審議会における振り返りについて

○事務局

(資料1に沿って説明)

○会長

この件については、みなさんご了承いただけたと思います。次に、答申案の説明をお願いします。

案件 2. 第 4 次豊中市一般廃棄物処理基本計画(答申案)について

○事務局

(資料 2 に沿って説明)

○事務局

本日欠席の委員から事前にご意見をいただいておりますので、ご報告させていただきます。資料 8 ページに記載の「(1)ごみ減量目標について」の文中、「・・・最終目標とすること、併せて、個別目標として・・・」の部分ですが、この表現では最終目標と個別目標が並列関係に見えるため、最終目標達成に向けて個別目標があるといった表現として「・・・最終目標にすること。また、これを達成するための個別目標として・・・」などとしてはどうかというご意見をいただいております。

○会長

現時点での答申案ですが、お気づきの点がありましたら、ご発言をお願いします。災害廃棄物の余力分を確保しようということから議論が始まったように思いますが、この答申では明確な表現を避けて、「余力をもって処理することが困難」という表現になっています。以前、副会長から災害廃棄物ということを確認に書くのはどうかというご指摘がありました。何か意図があって明確な表現を避けたのか、あるいは災害廃棄物に限らないということ避けたのか、その辺りご説明いただけますか。

○事務局

1日あたりの処理量が 525t、災害の部分を除けば 500t という理論上の裏付けはあります。ただし、それだけでなく、クリーンランドとしてはいわゆる日頃のメンテナンスなどもあります。前回いただいた宿題としては、中間処理施設とクリーンランドと調整の上決定とのことで一任いただき、今回このような表現にいたしました。

○会長

了解しました。単に災害分の 5%、10%という数字だけでなく、日頃のメンテナンスを含めて考えて理解すればいいということですね。運転開始からかなりフル回転で運転していると聞いていますので、あと 5 年くらいで不具合が出てくるかもしれません。

○委員

焼却炉は 30 年単位で考えていくと良いと思います。うまく使えば 50 年は使えるでしょう。

○事務局

計画量に基づいて施設の規模が決まります。現在、平成 28 年 4 月から運転を始めた豊中市伊丹市クリーンランドの新しい焼却炉は、年間 310 日間運転でフル回転しています。焼却炉も車と同様に整備期間が必要で、オーバーホール整備に年間 32 日間の期間を取っています。ただし、何年かに 1 度は大規模改修が必要で、5 年ごとに改修し、さらに 20 年ないし、30 年でより大規模な改修が必要となります。5 年毎の整備期間は 30 日の停止期間ではとても改修しきれない状況です。

そういうことも含めて、焼却処理量の削減によって整備期間が確保でき、安全で安定して焼却炉が運転できるということになります。

○会長

その他に、ご意見ございますか。

○委員

災害のニュースを拝見していますが、豊中市は山や大きな川がないので、まだ安心できるとは思っていますが、やはり災害のことは考えないといけないと思います。

○委員

災害廃棄物のことを入れなくてはいけないと思います。

○会長

災害廃棄物は、近隣で発災したときに受け入れるという相互扶助の考えに基づいています。全国的な自治体同士の連携というところで考えれば良いと思います。

○委員

ごみの状況について報道を見ましたが、とても勉強になりました。ごみ処理の流れなどを知ることがとても大事だと思います。最終的に資源になっていく仕組みを1時間にわたって放映されており、ああいう番組を子どもたちにも見せると良いのではないかと思います。

○委員

大阪でも、フェニックスで同じような取組みをしています。

○事務局

災害廃棄物に関して、東日本や熊本の震災を受けて、災害廃棄物の処理に係る計画も今年度中の策定に向けて鋭意作業中であり、素案についてはパブリックコメントを実施します。審議会でも情報提供を行いたいと考えています。

○会長

先ほど、事務局からの説明で花嶋委員からのご意見がありました。8 ページ、個別目標のくだりで、「併せて」という表現ですと、本来の目標である焼却処理量の抑制ということ、目標が併記されている印象を受けるので、「併せて」という表現ではなく、大目標を達成するための個別目標という表現に改めたいというご意見でした。この点については、私は同意しますが、みなさまいかがでしょうか。(異議なしの声)

それでは、花嶋委員の意見のとおり訂正いたします。その他にご意見あればご発言ください。

○委員

この案の前半は「です・ます調」ですが、8 ページ、(2)の文末では「…打ち出されたい。」な

どの記載になっているので、訂正されてはでしょうか。

○事務局

8 ページ(2)、(3)は、前回の審議会では、審議結果に含まずに付記事項ということで、別建てで記述していました。しかし、検討した結果、これも審議結果であるということで変更したため不一致が出ましたので、訂正させていただきます。また、(1)ごみ減量目標だけタイトルがつき、(2)、(3)には付いていないので、この辺りも調整したいと思います。

○会長

そうしましたら、答申案については、修正していただき答申に臨みたいと思います。

○事務局

いただいたご意見を踏まえて修正させていただきます。その後、豊中市長に答申ということになりますが、最終的な調整は事務局と会長に一任ということによろしいでしょうか。(異議なし)

○会長

それでは、次にごみ減量計画(骨子案)についてお願いします。

案件3. 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画(答申案)に基づくごみ減量計画(骨子案)について

○事務局

資料の説明の前に、資料3に記載しているところで変更したいところがありますので、ご報告いたします。第4次ごみ減量計画の骨子案に記載しています第4次一般廃棄物処理基本計画の目標値は、平成27年度の数値を基準に目標値を策定していましたが、平成28年度の数値を確認したところ、持ち去り行為禁止規定の施行の効果が大きくあったこともあり、リサイクル率の実績値が15.7%となりました。これは設定した目標値17%よりも1.3%少ない数字になり、市としては、目標値の再検討が必要という結果にいたりました。このことから基準年度を平成27年度から平成28年度に置き換えたいと考えています。目標値については、資源化率17%を19%とすることでこれまで算出してきた上昇率と同じ3.3%改善にしたいと思います。焼却処理量につきましては、修正はございません。また、上位計画である総合計画で確定した人口推計の数字をいただいてから再計算するという作業も必要となります。以上、ご理解いただいた上でご議論をお願いします。

○事務局

(参考資料1 ワークショップの開催状況について説明)

○会長

第4次ごみ減量計画の骨子案について、構成と目次をご説明いただきました。ワークショップとごみ減量計画との関係はどのように考えれば良いでしょうか。減量計画を作るにあたって、こういうことを実施したという報告なのか、あるいはごみ減量計画の中の、なんらかのアクションとして行ったのかどちらでしょう。

○事務局

ごみ減量計画の目標と骨子案のご説明をしましたが、詳細はまだ決まっていない状況で、これから詰めていきます。先ほどご説明したワークショップの中で、市のごみの分別の良い点や課題が出ており、ごみ減量計画で反映していけるか検討したいと考えております。

○会長

わかりました。みなさまからご意見を頂戴したいと思います。

○委員

ごみの減量について、私の行動している内容とあわせて述べてみたいと思います。ひとつは環境学習。6月2日に小学校の環境学習に参加しました。対応する市職員のみなさんの話す内容や話し方が創意工夫されており、真剣に取り組んでおられるのが非常に印象的でした。生徒たちに対してプレスパッカー車の扱いの実習、クイズ形式のごみの分別実習など、小学生にごみの減量について理解をしてもらう機会を作ることは、非常に大切なことだとつくづく思いました。この環境学習についても、小学生に限らず地域コミュニティに対して部分的に検討することも必要ではないか。それから、7月8日に家庭ごみ事業課から※「レッツ水切りトライアル」について説明を受けました。家庭ごみの減量について、私どものマンションがモデルケースになり、9月末日まで減量を試みます。ごみの排出量の大半が食品と紙ごみですので、家庭ごみについてはこの2つを減らしていくことが必要になってくると思います。9月の運動の結果は、平成30年3月に市が発行する2020ごみ減量通信に掲載されると聞いております。良い資料になるよう全力で協力したいと思っています。家庭ごみの減量については、地域コミュニティを動かすということが一番のポイントではないかと思えます。

※生ごみに含まれる水を切ることで可燃ごみの減量が図れるかを検証する取組み

○会長

私もごみはコミュニティからの減量が大切だと考えております。今回のワークショップでは、コミュニティに係り、「ごみゼロ企画3～色んな人と色んな場所でスペシャル出前講座～」でそのような表現があります。実施する場所として、スーパーマーケット、家電量販店、ホームセンター、学校の運動場などの記載があります。学校の運動場ですが、学校に行ける人は子どものいる方です。不特定多数の人が集まるのは店舗で、お店の集客にもつながり非常にいいことだと思います。こういうことを実際に実施するにあたっては事業者とのつながりが大切ですが、ぜひ実施していただきたいと思えます。

○委員

第3次ごみ減量目標の達成状況について、個別目標で見ると、市民1人1日当たりの家庭系ごみ排出量は大幅に達成と記載されていますが、事業系ごみの目標、資源化量の目標については達成できていないということに記載していただきたい。また、10ページのごみ排出量の動向などを見てみますと、阪神淡路大震災後からごみの排出量が減っているのがわかりました。これは市民、事業者、行政がごみを減らそうという努力の結果だと思います。こうした努力に対して、評価をしつつ、残った課題を第4次の計画でどうしていくかが、必要だと思います。答申案等を見るのは

ごく限られた人になるので、広報等で取り扱っていただきたい。もう1点、図3の事業実施状況評価について、もう少し大きくしていただきたい。

○委員

これは最終版では訂正されるのではないのでしょうか。目標の達成状況について、日本語表現として少しわかりづらい。案なので、最終的に改善していただきたいと思います。

○事務局

ご意見いただきました件について、まず第3次ごみ減量計画の目標達成状況ですが、別紙でカラー版2020ごみ減量プラン事業評価報告書をつけております。これを見ていただきますと、ご理解いただけるとと思います。今回は骨子案ということで、文章で表現しましたが、素案を作成する段階では、グラフ等を用いてわかりやすく表現させていただきますので、ご理解いただければと思います。また、ごみの排出量で評価と課題の周知方法についてご意見いただきました。評価については、事業評価報告書を発行して、みなさまに見ていただくとともに、豊中市の上位計画、環境基本計画でも環境報告書を作成しており、その中でもごみについて詳しく記載しながら2つ併せて周知しています。評価については記載されており、課題についても確定版作成に向けて要因分析し、どのように解決していくのかということまで、確定版の作成に向けて市民のみなさまのご意見をいただきながら作成していきたいと考えています。また、施策体系は骨子案ですので、次の素案では大きく表記したいと思います。

○会長

ワークショップで出てきた「文字なし冊子」の案などは、施策体系のどこに入るのでしょうか。ごみの減量ということで第3次までやってきて、第4次で何を目玉にするのかということですが、新規の居住者が増えて人口が増えているということですが、新規の居住者が学齢期の子どもがいるとは限りません。そのような状況の中で、ごみについての話題が新規の居住者と既存の住民との関係を一番意識するツールになります。ごみを通してコミュニケーションが高まります。市内にはすでに多くの外国人居住者もいる中、そのことも考えて、ふらっと立ち寄れるようなイベントと、文字がなくても目でみてわかる表示があれば良いかと思います。

○委員

「文字なし冊子」を作成するのは、新しい居住者のために必要です。豊中市は外国人が多いということですが、使用されている言葉は何語が多いのでしょうか。私も図書館等でワークショップを開催したとき、多言語を用いて、みなさんに理解していただこうと思いました。そのときは、英語、中国語、韓国語のほかにフィリピンの言葉も用いて説明しました。他の言語を用いている方にごみ出しの際、ご近所とトラブルがないよう、適切な言語のごみ分別冊子が渡せば良いと思います。習慣や文化が違う人間が暮らしていくにはそういったことが必要です。このような地道な活動でトラブルがなく共存していけるとと思います。また、ワークショップごみゼロ企画3について、感じたことですが、地域の男性はどのような形で関わるのでしょうか。私の地域の自治会では、学校の行事のほかに地域の行事が色々とあります。そういったときに、男性が率先してごみを集めるなど、色々な形で参加されています。退職した方や自治会活動をしている方、そう

いった場所での男性の動きは貴重なものだと思います。

○事務局

多言語版のごみ分別冊子につきましては、作成した段階では、英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語の5ヵ国語でしたが、最近ポルトガル語を利用される方は少ないということで、英語、中国語、スペイン語、韓国語の4ヵ国語を中心に作成し、対応しています。

○委員

その4ヵ国語で別に支障はないということですか。

○事務局

今のところ、クレーム等はございません。

○会長

ごみゼロ企画3、実施する人・協力する人の中で、主婦、高齢者、事業者、地域の人、ここで男性が見えないこともないので、ご指摘があったということで承っておきます。

○委員

環境学習の対象が小学校4年生ということですが、他の年代、大人も含めて広げるようにすれば良いと考えます。特に保育園、幼稚園は親が付き添うこともあるので、二重の効果があります。この5年間、ごみがあまり減っていません。この現実を踏まえて、何か知恵をださなければならないと思います。

○会長

今、委員からお話がありましたが、家庭系ごみ排出量・市民1人1日当たりの量を見ると、平成28年の1人1日当たりのごみ量が550グラムと増えています。この原因は何でしょうか。

○事務局

今回の目標で、資源化率を除くかどうか議論になったと思いますが、現行計画の中では資源（集団回収量を含む。）を含むということになっています。平成28年度に施行した再生資源持ち去り行為の禁止規定から、粗大ごみ、不燃ごみ、古紙、空き缶などが増えたことが原因です。

環境学習の件ですが、市内に公立小学校41校、公立のこども園は26園あります。平成28年度の実績は、市から環境学習のため公立小学校全校や、公立のこども園等24園で実施しています。また、中学校及び京都の大学でも出前講座の要請がありましたら伺っています

○会長

ごみ減量計画については、骨子として目次の段階ですので、次回に引き続き審議したいと思います。

○会長

8月に、私が答申を市長に提出いたします。修正等はお任せいただければと思います。

案件4.「その他」について

○事務局

次回案件は、以下の通りです。

- (1) 第4次一般廃棄物処理基本計画策定に係る答申の報告について
- (2) 第4次一般廃棄物処理基本計画素案について
- (3) 第4次一般廃棄物処理基本計画素案に基づくごみ減量計画素案について
- (4) 計画の進行管理および評価方法について

日程については、9月13日に開催したいと考えております。後日、開催案内を正式に送付いたします。本日配布しております事業評価報告書（概要版）ですが、廃棄物減量等推進員全体会議や事業系一般廃棄物管理責任者研修会において意見を募集いたします。なお、10月に発行予定となっておりますので、発行しましたら情報提供させていただきます。以上です。

5. 閉会